

令和7年度第1回 区民との意見交換会の開催状況について

東京二十三区清掃一部事務組合（以下「清掃一組」という。）では、事業に関する区民のご理解を深め、活発なコミュニケーションを図ることを目的として、ごみの中間処理事業[※]に関する区民の関心の高い事項や時事をテーマに、区民との意見交換会（以下「意見交換会」という。）を開催しています。

今回は、通算で39回目となる令和7年度第1回意見交換会の内容についてご紹介します。

（※）ごみを最終処分（主に埋め立て）する前に焼却や破砕などで減容化やリサイクル可能な状態にするための処理

1 令和7年度第1回意見交換会の内容

令和7年度第1回意見交換会は、令和7年8月2日（土）、足立清掃工場で開催しました。今回は「国際協力から見る世界



（写真①）パネル展示の様子

のごみ事情」をテーマに設定し、職員による説明を行いました。その他、工場見学や、清掃事業に関するパネルを自由にご覧いただきながら、ご意見、ご質問にお答えするスペースを設けました。

参加された方からは、「事業への理解が深まった。」といったご感想を頂きました。（写真①）

以下では、当日のテーマ説明の内容をご紹介します。

1 世界のごみ事情

東南アジアやアフリカなどの開発途上国では、急激な都市化や人口集中、ライフスタイルの変化等によるごみ量の急激な増加や種類の多様化に対して、分別や資源化などの対応が追い付いていません。例えば、ベトナムのハノイ市で撮影されたごみ集積所の写真からは、プラスチックや紙、残飯が混ざったごみが回収箱いっぱいに捨てられている様子が分かります。（写真②）



（写真②）ハノイ市のごみ集積所



（写真③）一次収集人がごみを収集する様子

収集や運搬の面では、人口密集地域において、狭い地区に多くの家屋が密集しているため、道路の幅が狭く車両の進入が困難で、行政の廃棄物収集サービスが行き届かないことがあります。

そのような地域では、「一次収集人」と呼ばれる人たちが各家庭から手押し車でごみを収集し、大型の車両への積替え場所まで運搬することで生計を立てています。（写真③）

23区では、収集・運搬されたごみは、焼却処理施設や破砕処理施設などで中間処理していますが、開発途上国では中間処理施設が十分に普及しておらず、ごみを最終処分場へ直接埋立てることが一般的となっています。

中間処理施設がある場合でも、管理が不十分で、処理前や処理後の貯留場所からごみが分解して発生するガスや煙が上がる可能性があります。また、焼却処理施設の公害対策まで行き届かず、煙突から黒い煙が排出されることもあります。

最終処分場についても、多くの処分場がオーブンダンプ型となっています。これは、地面にごみをそのまま投棄するだけの方法で、地盤を締め固める転圧や、土を被せる覆土などが施されていません。そうした状況下で家庭ごみや粗大ごみ、医療廃棄物等の様々なごみが混在して投棄されており、公衆衛生の悪化が問題となっています。

さらに、処分場の道路やフェンスなどの設備が未整備であるために雨期に収集車両が処分場に入れない、部外者や家畜が侵入して危険であるといった、管理上の課題があるケースも多く見られます。（写真④）

以上のように、海外の廃棄物処理の実情として、分別やリサイクルの仕組みやごみ処理施設がまだ整っていないことから、ごみの散乱や不法投棄につながっています。



（写真④）ごみがそのまま投棄されている最終処分場

2 国際協力の概要

清掃一組では、このような世界のごみ問題に対し、令和3年に「東京二十三区清掃事業国際協力アクションプログラム」を策定し、国際協力事業を展開しています。その基本理念は、「グローバルな貢献と地域のアクションを結ぶ」で、次の3つを基本的な考え方として掲げています。

- ① 23区と連携し、収集・運搬から中間処理まで、一体となった国際協力を展開していく
- ② 国の海外展開戦略や東京都、23区の友好事業への参加により貢献していく
- ③ 事業の実施に当たっては、評価・検証を行いながら進めていく

清掃一組の国際協力事業は、この基本理念に基づき、次の3つのアプローチで進めています。



3つのアプローチのイメージ図

- (1) 海外諸都市への技術的助言
知識・経験を有する人材を海外に派遣し、廃棄物に関する調査への協力や国際会議での講演を通じて、その国の実情に合わせた技術的助言を行っています。(写真⑤)



(写真⑤) 国際会議の様子

- (2) 海外人材の育成支援
将来、現地で活躍できる人材の育成を支援するため、海外諸都市から研修生を受け入れ、23区の収集現場や清掃工場の視察の受け入れや講義を行っています。(写真⑥)



(写真⑥) 視察受け入れの様子

- (3) パートナーシップの推進
国際協力事業を効果的に進めるため、23区等の関係機関と協力体制を構築しています。そのほか、区民向けの広報活動や職員の人材育成にも取り組み、質の高い国際協力事業の継続的な推進を目指しています。

3 まとめ

開発途上国の多くでは、ごみの収集・分別体制や住民周知が十分に整っておらず、清掃工場なども未整備なことから、衛生的な環境を保つことが難しい状況にあります。

23区の収集・分別体制、住民周知のノウハウは、こうした国々の課題解決に役立つと期待されています。

また、開発途上国が衛生的な環境へ改善していくためには、法整備や人材育成、施設整備など、多くの課題を解決する必要がありますが、これらは一朝一夕に解決できるものではなく、息の長い支援が不可欠です。

そのため、清掃一組は、収集・運搬から中間処理、最終処分まで一体となった支援の継続に向けて、23区や関係機関と強固な協力関係を築いていきます。

開発途上国の環境問題の解決は、地球環境問題の改善につながりますが、それにとどまらず、一人ひとりの行動が地球環境問題の改善につながるよう、清掃一組

は積極的な情報発信を行っています。

2 今後の開催予定

例年、意見交換会は7月～8月頃に第1回、10月～11月頃に第2回、3月頃に第3回の全3回開催しています。(写真⑦)

今後の開催予定やこれまでの意見交換会の開催結果については、清掃一組ホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。



清掃一組HP

(東京二十三区清掃一部事務組合 総務部企画室)



(写真⑦) 意見交換会での工場見学の様子